2025

久野営農経済センターだより

【温州みかん】*下線部は重要防除なので必ず防除する。

病害虫防除　5月中旬～下旬

○灰色かび病・そうか病

フロンサイドSC：2,000倍　収穫30日前　1回　50 ml／水100ﾘｯﾄﾙ　又は

ストロビードライフロアブル：2,000倍　収穫14日前　3回　50g／水100ﾘｯﾄﾙ

○コアオハナムグリ：モスピラン顆粒水溶剤（劇）　4,000倍　3回　収穫14日前　25ｇ／水100ﾘｯﾄﾙ

そうか病多発園ではフロンサイドSCを散布する。＊かぶれに注意する。

灰色かび病防除は満開から落弁期にかけて散布する(多発園は2回)。 フロンサイド使用回数1回

訪花害虫多発園では2回以上散布する（３分咲きと満開時期)。

夏肥施用　５月下旬

特選みかん配合655：200kg／10ａ（吸収率を高めるため、6月中旬と2回に分肥すると効果的)

施肥後、軽く中耕する。反射シート被覆のため秋肥が施用できない場合は夏肥を多めにする。

葉面散布　樹勢が低下している樹では尿素600倍を散布し、樹勢の回復を図る。

【中晩柑】*下線部は重要防除なので必ず防除する。

病害虫防除　5月上旬～5月中旬

○灰色かび病　ストロビードライフロアブル　3,000倍　収穫14日前　3回　33g/水100ﾘｯﾄﾙ

又はフロンサイドSC　2,000倍　収穫30日前　１回　50 ml／水100ﾘｯﾄﾙ

※灰色かび病防除は満開から落弁期にかけて散布する(多発園は２回)

○コアオハナムグリ・ケシキスイ類　モスピラン顆粒水溶剤（劇）　4,000倍　収穫14日前　3回　25ｇ/水100ﾘｯﾄﾙ

湘南ゴールド・はるみ（かいよう病に弱い品種）　5月上旬～5月中旬

かいよう病：コサイド3000　2,000倍　50ｇ／水100ﾘｯﾄﾙ＋クレフノン　200倍　500ｇ／水100ﾘｯﾄﾙ（薬害軽減のために加用する）

マシン油散布と2週以上あけ、湘南ゴールド、はるみ、レモンはかいよう病になりやすいため薬剤防除を行う。

栽培管理・樹勢強化

葉面散布　５～８月に不知火・はるみの樹勢強化を目的に尿素600倍の葉面散布を行う。

はるみの着花過多は樹勢低下を招くため、はるみ、不知火は上部1/3～1/4の摘蕾や早期摘果をし、樹勢強化を図る。

【レモン】*下線部は重要防除なので必ず防除する。

病害虫防除　5月（開花盛期～落弁期）

○かいよう病　コサイド3000　2,000倍　50g／水100ﾘｯﾄﾙ又はイデクリーン水和剤　500倍　200g／水100ﾘｯﾄﾙ　（クレフノン　200倍　500ｇ／水100ﾘｯﾄﾙ　薬害軽減のために加用する）

○灰色かび病・そうか病　ストロビードライフロアブル　2,000倍　50g／水100ﾘｯﾄﾙ　収穫14日前3回

○チャノホコリダニ・ミカンサビダニ　イオウフロアブル　400倍　250ml／水100ﾘｯﾄﾙ　発生初期

○コアオハナムグリ　モスピラン顆粒水溶剤　劇　4,000倍　25g／水100ﾘｯﾄﾙ　収穫14日前　3回

マシン油散布と14日以上空け、イデクリーン水和剤とイオウフロアブルはマシン油との14日以内の近接散布は行わない。

【キウイフルーツ】*下線部は重要防除なので必ず防除する。

病害虫防除　5月上旬

花腐細菌病　環状剥皮（樹勢低下時は行わない）蕾白化期（がく割れ）5/1頃に主幹に4～5.5mm幅で行う。

5月中旬（開花前）

○かいよう病・花腐細菌病　コサイド3000　2,000倍　50ｇ／100ﾘｯﾄﾙ

（クレフノン200倍加用　500ｇ／100ﾘｯﾄﾙ）

（かいよう病は収穫後から果実肥大期まで、花腐細菌病は休眠期～叢生期(新梢長約10cm)まで）

○カイガラムシ類・キウイヒメヨコバイ　アプロードエースフロアブル　1000倍　収穫前日　1回

100ｍｌ／水100ﾘｯﾄﾙ

摘　蕾　　5月上旬～中旬

早期に側花・変形花を除去し、受粉効率と初期肥大を良くする。5月の強風を考慮し、花数を調整する。

人工授粉　　5月中旬～下旬

石松子を使った受粉　5～10倍　　開花２～３日までに受粉すること。

溶液受粉　　250～300倍　　希釈してから2時間以内に使い切ること。

【う　め】*下線部は重要防除なので必ず防除する。

病害虫防除　農薬の収穫前日数を遵守すること。

5月上旬　○黒星病・すす斑病 スコア顆粒水和剤　　3,000倍　収穫前日　3回　33ｇ/水100ﾘｯﾄﾙ

5月中旬～下旬　○黒星病・すす斑病　パレード15フロアブル 2,000倍　収穫前日　2回　50ml/水100ﾘｯﾄﾙ

収　穫

梅酒用は大きい果実から収穫し収穫後の直射日光は避け、漬梅用は青みが抜けた大きいものから収穫する。

【水　稲】

育苗箱施薬剤　育苗箱施薬は本田への防除軽減のために必要な防除であるため、必ず散布する。

※次の二つの育苗箱施薬から一剤選択し、防除を行う。

イネミズゾウムシ
イネドロオイムシ
ウンカ類
ツマグロヨコバイ
いもち病・紋枯病・白葉枯病・内穎褐変病
→ エバーゴルフォルテ箱粒剤
播種時(覆土前)～移植当日1回育苗箱1箱当たり50ｇ

・いもち病や初期害虫、紋枯病に高い効果がある。優れた浸透移行性、長い残効性により、育苗箱処理で後の防除が省け、防除回数の低減が可能。

イネミズゾウムシ
ウンカ類
ニカメイチュウ
イネツトムシ
いもち病・内穎褐変病
→ ブーンゼクテラ箱粒剤
播種時(覆土前)～移植当日1回育苗箱1箱当たり50ｇ

注）育苗箱施薬剤と除草剤は区別して保管すること。

病害虫防除　水田入水後、貝の活動が活発になり始めたら散布する。被害発生前、早めの散布が重要。

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミノン　　1～4kg/10a　湛水散布　（収穫60日前まで　2回以内）

スクミンベイト3　2～8kg/10a　湛水散布　（使用回数・使用時期制限なし）

（スクミンベイト3の使用量登録が変更されたので注意すること。）

基肥一発型肥料

速効性・緩効性肥料が入った追肥不要の省力型肥料。(天候、生育状況により追肥が必要になる場合もある)生育に合わせ窒素成分が供給されるので、利用効率が高まり、側条施肥にも適している。

てまいらず464ネオ・スーパーナイスワン　　30～40kg／10a

（栽培条件に応じ、適宜増減）キヌヒカリ、さとじまん、はるみ、てんこもりに使用可能。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用すること。